

2/7 第2回マネジメント部会

地域課題の解決に向けて

三戸町地域担い手育成総合支援協議会は、農業の地域課題の共有と解決について検討するマネジメント部会を、中央公民館ホールで行い、22人が参加しました。

話し合いを円滑に進行するファシリテーターとして八戸学院大学の堤静子准教授を迎え、「労働力補完システム構築」に向け、検討しました。

部会の前に、同大学の学生6人が行った「労働力補完システム構築のための基礎調査」の報告と労働力確保のための具体的提案を発表。学生は、「自由な出退勤制度を取り入れた働き方や作業内容の形式化、大学のゼミ、サークル・団体の誘致、農業サークルや地元中高生との交流による農業関係人口の拡大、SNSによる情報発信」など、時代にあった仕組みを提案しました。

学生の提案を受け、部会参加者は3つの班に分かれ、学生の提案を実現させるために必要なことについて話し合いを深めました。協議会では、今後も継続して労働力不足解消に向け検討していきます。



アイデアを発表する学生



危険な場所はどこ？

2/11 地域安全マップづくり体験

危険を予知して回避しよう

三戸町防犯協会（松原一夫会長）は、町内の小中高生を対象に、犯罪が起きやすい場所を把握して、危険を回避するための、地域安全マップづくり体験を行いました。青森中央学院大学の佐藤淳准教授を講師に迎え、ワールドカフェ方式のワークショップも行いました。

参加者は、3つの班に別れ、実際に街中を歩き、現場の写真撮影や、地域住民に取材をしながら、防災防犯上の危険箇所を洗い出しました。ワークショップでは、管理の行き届いていない空き家や狭く暗い路地などの危険性を指摘し、「街灯を増やして、明るい場所を増やす。地域でパトロールを実施する」など、三戸町をより安全な町にしていくための活発な意見交換が行われました。

※ワールドカフェ方式のワークショップ…カフェでお茶を飲んでいるようにリラックスした雰囲気の中で行われる会議。少人数ずつに分かれ、テーブルごとに対話。一定時間が過ぎれば、メンバーを入れ替えて対話を繰り返し行うもの。

2/23 チャリティー演芸会

唄や踊りで会場湧く

三戸町連合婦人会（伊達よしえ会長）主催による、チャリティー演芸会が三戸町民体育館で開催され、町内外から17団体・約80人の参加があり、来場者約230人の前で、42演目にわたり唄や踊りを披露しました。可憐な唄や踊りに会場から大きな拍手が送られました。

集まったお金は、主に青少年の健全な育成につながる事業に役立てられます。



目頃の練習の成果を披露

2/18 「11 ぴきのねこ」と「アウトドアプロダクト」がコラボ 三戸郵便局が町にグッズを寄贈

町出身の漫画家故・馬場のぼるさんの人気絵本「11 ぴきのねこ」（こぐま社刊）と雑貨ブランド「アウトドアプロダクト」のコラボグッズが発売され、東北地方の郵便局で限定販売されました。グッズは、リュック、長財布、小銭入れの3種類で、それぞれ150個限定。東京オリンピックを意識して、絵本絵巻「11 ぴきのねこマラソン大会」に登場するキャラクターがデザインされています。三戸郵便局（橋本正俊局長）は、役場を訪れ「商品を通じて、三戸町を多くの人に周知していきたい」と話し、松尾和彦町長にグッズ一式を手渡しました。松尾町長は「色や手ざわりがいい。11 ぴきのねこのファンの皆さんに使ってほしい」と話しました。 ※大好評につき、完売となりましたが、追加販売を予定しています。詳しくは、三戸郵便局まで（☎ 22-2363）



左から「とらねこたいしょう」、橋本局長、松尾町長



▲寄贈されたコラボグッズ



寒さを吹き飛ばせ!

2/24 子ども会大会

子ども会冬の一大イベント

三戸町子ども会育成連絡協議会（立花正実会長）は、冬期の運動不足の解消や、子どもたち同士の交流を深める子ども会大会を町民体育館で行いました。町内の小学生48人とその保護者15人が、体を動かすさまざまなレクリエーションに参加し、汗を流しました。子どもたちは、靴を飛ばした距離を競うくつとばし大会や、ネオホッケー、手作りの凧あげなどを楽しみました。あいにくの雨のため、体育館内での凧あげとなりましたが、子どもたちが一列に並び、一斉に凧をあげると2階席の高さまで勢いよくあがり、場内からは歓声が上がりました。さまざまなレクリエーションを通じて、子どもたちの絆も深まったようです。

2/26 いきいき百歳体操

より楽しく活動するために交流

認知症予防のために取り組んでいる「いきいき百歳体操」の交流会がジョイワーク三戸で行われ、日頃から体操に取り組む町民106人が参加しました。交流会前には90歳以上のいきいき百歳体操実践者の表彰が行われ、佐々木てるさん（91歳）と久手昭子さん（90歳）、竹原みわさん（90歳）が松尾和彦町長から表彰状を受け取りました。



(左から) 竹原みわさん、佐々木てるさん、久手昭子さん



交流会後、体操をする皆さん

交流会では「この活動をこれからも楽しく続けていくために」というテーマで、席替えをする井戸端会議を行い、各自の思いや夢、情報などを共有しました。

六日町地区いきいきリーダーの泉澤実さんは「体操の質が年々良くなってきており、若者の参加も増えて嬉しい。これからも若い人たちにたくさん参加してほしい。」

青森県在宅保健師の会会長である新井山洋子氏は「人との交流を楽しく継続していくことが大事。自分の健康を大切に頑張ってください」と話しました。

2/28 寿教室で「三戸町長お話し会」

現代社会の動きを学ぶ

60歳以上の高齢者を対象に、生きがいと健康づくり、仲間づくりの推進を目的としている三戸町高齢者学級「寿教室」の学習会として、「三戸町長お話し会」が中央公民館で行われました。

お話し会には38人が参加。松尾町長は地球温暖化が今後の経済や自然環境に悪影響を及ぼすとし「温暖化を軽減するためにごみの分別や電気の節約など、私たちが日常生活で実践できることはたくさんあります」と参加者に力を込めて話しました。キャッシュレス決済の話題では、便利さとお得さについて説明し「三戸町でも利用できる店舗がたくさんあります。さらに、マイナポイントという買い物に使えるお得なポイント制度も始まります」とマイナンバーカードの取得を呼びかけました。参加者の皆さんは、町長の講話に熱心に耳を傾けました。

寿教室学級長の川村妙子さんは「町長から分かりやすいお話を聞けて、より一層関心が高まりました。これからも私たちができることに意識して取り組んでいきたいと思います」と話しました。

※マイナポイント：選択した決済サービスで、買い物に使える国から貰えるポイント



町長のお話に耳を傾ける寿教室の皆さん



一年間を振り返って

2/29 三戸土曜塾閉塾式

先生や仲間へ感謝して

学力向上を目指す子どもたちに、元教員などがボランティアで学習指導する三戸土曜塾の閉塾式が中央公民館で行われました。今年度は、町内の小中学生28人が通い、受験勉強に励んだり、立志科で郷土の歴史や文化などを学びました。

三戸土曜塾の会の松尾淳一会長は「社会は、試験・競争の連続です。壁にぶつかったときは、自分に自信をもって、次の道を選択できるようになってほしい。どのような道に進んでも、ふるさと三戸町のことを覚えていてほしい」と塾生にエールをおくりました。

松原悠斗さん（小中一貫三戸学園三戸中9年）は「英語の長文を読めるようになるなど、分かることが増えた。立志科は、さまざまなことを学べてためになった」と一年を振り返りました。

4/7～ オリジナルフレーム切手が新登場

四季折々のねこたちにほっこり

三戸郵便局（橋本正俊局長）は、故・馬場のぼるさんのイラストがデザインされた特製フレーム切手シートを作製しました。今回のフレーム切手のテーマは「馬場のぼる 11ぴきのねこの春夏秋冬」。四季折々のねこたちのように、ほっこりした気持ちになります。製作に携わった橋本郵便局長は「金魚すくい、ラグビーなど楽しくなる図柄が描かれ、この切手が全国、全世界に手紙として広まることを楽しみにしています」と話しました。オリジナルフレーム切手シートは、1450円（税込み）・1500シート限定で、青森県内の郵便局、東北6県の中央局など、町内では、道の駅さんのへ、豊川酒店、文海堂で購入できます。



▲新発売のフレーム切手